

総合地球環境学研究所 中国環境問題研究拠点主催

第 39 回中国環境問題研究拠点研究会

日時：2015 年 1 月 6 日（火）14：30～16：30

場所：総合地球環境学研究所 セミナー室 1・2

講演者：福嶋義宏（総合地球環境学研究所・名誉教授）

馬雙鈞（海洋研究開発機構・主任研究員）

陳建耀（中山大学・教授）

「急速に変わる雲南地域」

これまでは、雲南といえばヒマラヤ造山帯の東端に位置し、平地から 3,000～2,000m の低緯度にある傾斜帯でアジアモンスーンの影響下にあり、6～9 月が雨期となる。世界気候区分上、カシヤシイ、ツバキを主とする照葉樹林帯と区分すべきとの説と、その下で発達した食文化が日本との類似性が深そうだという点、さらにコメや茶の原産地ではないかとの研究も、日本人の知的好奇心を刺激してきた。また、中国の少数民族数のおよそ半数が雲南に存在する。最近は日本人による、有益な調査文献も数多く出版されており、それらを参考に私どもは、何度か同地域を訪れた。その結果からは、雲南は辺境地ではなく、今後の東南アジアに向けた中国の橋頭保として着々と整備が進んでいる重要地域であることに気付いた。それには地形的な特徴と古くから着手されてきた漢民族の拠点確保が機能してきたとみられる。まだまだ、疑問は尽きないが、まずは現況を講演時に具体的に述べたい。